

2021年2月10日

東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会森喜朗会長の発言に  
抗議するコメント

岩手ウィメンズネット代表 須賀原チエ子

2月3日のJOC（公益財団法人日本オリンピック委員会）臨時評議員会において、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会森喜朗会長が「女性がたくさん入っている理事会は時間がかかる」「女性は競争意識が強いため誰かが発言すると自分もやらなければならないと思うのだろう」などと発言されました。

これらの発言について森氏は、2月4日の記者会見で「オリンピックの精神に反する不適切な表現であった」と認め、発言を撤回し謝罪しました。

森氏は公益財団法人日本スポーツ協会の最高顧問でもあり、元首相という大きな影響力を持つ立場にあり、そのような立場にある人の女性蔑視発言を看過すれば、日本社会は女性差別を容認しているという誤ったメッセージを発信することになりかねません。また、その場しのぎの謝罪と撤回だけでは、その根底にある意識の変革には到底つながりません。

岩手ウィメンズネットは、このような偏見に基づく女性蔑視の発言をする方が会長職を続けるのは不適切と判断せざるを得ないと考え、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会会長を辞任することを求めます。

私たちは、被災県としての復興を進めるため、また、より良い社会を目指すためには、女性の社会参画を広げるべきと考え行動して参りました。

私たちは、このような発言を許す社会風土を変革するために、復興五輪と謳って進めてきた「東京オリンピック・パラリンピック競技大会」の組織委員会の意識改革、ひいては日本全体のジェンダー平等の実現に向けた具体的な取り組みを強く求めます。